東京都における東京２０２０大会に向けた公園整備について

東京ブロック　　梶原　ちとせ（東京都）

1.はじめに

今年の夏開催予定の東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会に向けて、レガシーとして残る恒久的な競技会場は、オリンピック・パラリンピック準備局、建設局、港湾局など東京都が整備し、仮設施設は、大会組織委員会が整備しています。

また，大会に合わせて、道路の無電柱化、遮熱性舗装、自転車走行空間の整備、橋梁の長寿命化とライトアップ、舟運の整備、公園の移動円滑化、防災公園施設の整備など既存施策と組み合わせたインフラ整備も進めています。

2.競技会場の整備

私がいるオリンピック・パラリンピック会場整備事務所では、アーチェリーとカヌー・スラローム競技会場の整備、下記の３公園の施設改修を担当しました。

公園名	面積	オリンピック	パラリンピック
夢の島公園	77.8ha	アーチェリー	アーチェリー
潮風公園	43.4ha	ビーチバレー（仮設）	―
葛西臨海公園	15.4ha	カヌー・スラローム※	―
※ ｶﾇｰ･ｽﾗﾛｰﾑ会場は葛西臨海公園の隣接地（臨時駐車場）に整備			

競技会場は、平成 26 年から過去事例や現場の調査等の準備を開始し、平成 31 年に完成にこぎつけました。直接設計工事に携わった職員も、土木、建築、機械、電気及び造園と多業種にわたり、調整先も日本国内だけでなく国際的な組織なども含めて今まで経験したことのない手探りで進めていく業務となりました。

アーチェリー会場は、夢の島公園内にあったコロシアムという窪地を、30,000 ㎥の土砂で埋めたてて、防矢施設としての築山も含めた 2ha 程度の芝生広場、長さ 130m 幅 4m の大きなシェルター等を整備しました。

カヌー・スラローム会場は、設置場所を立候補時の葛西臨海公園から、隣接する下水道用地に変更して整備した国内初の人工競技施設で、水量 18,000 ㎥の流れるプール（人工水路）と設備を格納する建屋、利用者が使用する管理棟からなっています。人工水路は水道水を使用し、競技コースに必要な水流を発生させる４基のポンプ（4 ㎥/S）とウォーミングコース用の小型ポンプ、ろ過設備、ボートコンベア等様々な設備を備えています。

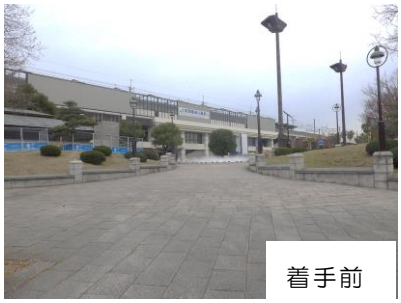
埋立地という軟弱地盤の上に整備するため、アーチェリー会場は、平成 28 年度から２年かけて、沈下量を観測しながら 6cm/日程度の盛土による地盤造成を行い、平成 30 年度に施設整備を行いました。カヌー・スラローム会場は、施設自体が重量構造物となるため、平成 28 年度からプレロードによる圧密沈下対策と地下水低減による浮力対策を施して、施設を整備しました。

カヌスラ競技場

3.公園のインフラ整備
～葛西臨海公園を例として

葛西臨海公園では、開園から 30 年が経過し埋立地特有の強風、塩害、地盤沈下による老朽化が進むうえ、東日本大震災後施設の劣化が加速したため、東京 2020 大会に向けてカヌー・スラローム会場に近い公園西側で次のような整備を実施しました。

担当	内容
造園（移動等円滑化）	中央園路の改修、会場へのアクセスルートの新設
	サインの多言語化、駐車場のスペースの確保
建築	トイレの洋式化、違法建築の是正
設備	照明の LED 化、防災照明、非常用発電機
※葛西臨海公園では大規模土木構造物（橋梁、護岸東）がなく土木工事はない	

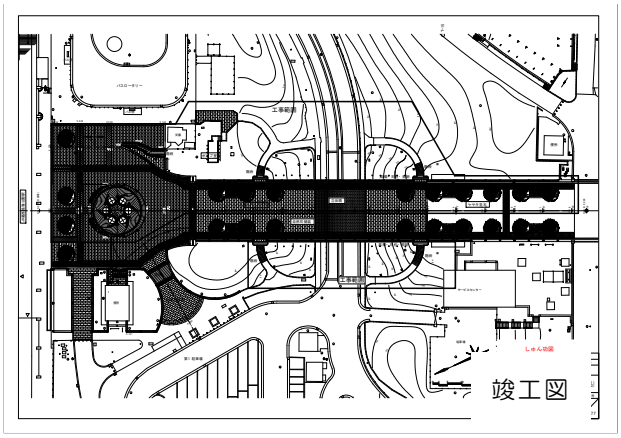

着手前

施工後

担当した移動等円滑化では、次の３つの基準に沿った整備が求められましたが、この３つの基準はお互い整合していないため、結果として個々の施設についてそれぞれ一番厳しい基準で整備することにしました。

基準名	縦断勾配	園路幅
東京都立公園における移動等円滑化の基準に関する条例	4%	1.8m
福祉のまちづくり条例	4%	1.8m
Tokyo2020 ｱｸｾｼﾋﾞﾘﾃｨｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ	5%	2.0m

中央園路の改修では、①基準を超える縦断勾配、②基準に満たない車いすが通行する園路幅が主な課題でした。



竣工図

縦断勾配については、起点となる葛西臨海公園駅から公園橋までは最大 1000mm の嵩上げ、公園橋では最大 300 ㎜の嵩下げを行い、4.5～5.4%あった勾配を 3.85%に低減、園路幅については、既存植込み地を削って必要な幅を確保しました。

施工にあたっては、駅からのメインアプローチであるため、①利用動線を確保しながら半断面ずつの施工、②駅、駐車場、区道等複数の施設との調整及び連続性の担保し、軟弱地盤対策として軽量盛土材、植栽の根茎対策として耐圧植栽基盤を使用するなどさまざまな配慮が必要でした。

4.さいごに

現在、東京都では、新規整備よりも改修や再整備が公園整備の主な業務となっています。葛西臨海公園を例に大規模な再整備で注意が必要な点についてまとめました。

公園の特性に応じた計画立案、当初整備のコンセプト等をどこまで残すのか

①現況把握の重要性
竣工図だけでなく現場調査も重要（特に見えない地下部分！）周辺施設も含めた利用実態の調査が必要

②関係部署との調整
管理部署…共用中の公園で施工するため制限
事前協議・手続き…調整先の洗出しと調整スケジュール

果たして、東京 2020 大会は無事に開催できるでしょうか。今回の整備については文章にできない話も多く、できれば現場でお話しする機会を設けられたらと思います。

２０２０東京オリパラに向けておもてなしの庭を芝公園に作庭

東京ブロック　井上　花子

花と緑で世界から来られる方をおもてなししようと、都市緑化機構が主催する緑の環境プラン大賞の特別企画「おもてなしの庭」は２０１５年から東京都内限定で５年間募集が行われてきたが、最終年である２０１９年は日本造園組合連合会が提案した『匠の庭師が日本庭園文化を世界に発信』が審査委員会でおもてなしの庭大賞に選ばれ、５月末に東京都港区芝公園に誕生することになった。大賞には２０２０万円の助成がある。

企画書提出に 2018 年春から取り組み、芝公園の管理者である東京都公園協会を通じて、東京都との協議を行ったが、大きな課題は、都立公園に民間団体が庭園を造ることの各種課題。１０年間の管理、公園利用者に対する安全配慮、石積みなどの高い壁は無理、蚊対策で水の使用は無理、枯山水にしても州浜の玉石は固定すること、日本庭園を作庭するにはなかなか難しい条件である。

↑授賞式の会場で関係者を撮影

会長の大橋尚美さんの助力をいただき、それらをクリアしつつ、民間力での公園の魅力向上が認められ、残すものと、オリパラ時の仮設に分けて、ハレとケの庭に分けてデザインしていくこと、さらに庭造りの実演やワークショップのような日本庭園の魅力を世界に発信していくことをコンセプトとして、おもてなしの庭の計画がまとまった。書類審査を通過、どんでん返しがあるという８分間のプレゼンで、大橋さんはじめ袴纏姿で臨み、何回もストップウォッチをもって練習した結果、見事に大賞受賞となった。スポンサーの第一生命さんからはプレゼンがとてもよかったとおほめいただいた。11 月 25 日の授賞式の模様はＴＢＳニュースで報道され、若手役員が袴纏姿で真子様に説明しているシーンが全国放送され、大きな反響を得た。しかしながら、残念なことに、芝公園はマラソンの折り返し地点なので選定したわけであるが、突然の札幌移転。ショックであったが、気を取り直して、準備を進めている。

庭園は大きく二つに分かれ、増上寺に近い部分は『はなやぎの庭』として、庭のパフォーマンスをする場であり、若手の令和時代を先取りする和モダンの世界を構築する場でもある。臥龍垣や疾風垣、うろこ垣や瓦素材の活用などで、和モダンの世界を表現する。

『逍遥の庭』は伝統技法で八つの景が東海道を想定した道で繋がる構想、そして仮設ではあるが、パラ時には、竹を加工した竹花火と朝顔などの花々で車いすマラソンコースを彩り、応援するという企画である。

日本庭園文化を世界に発信

４月から５月の庭造りは、全国から集まる若手の技能研修会として開催し、５月 17 日には、庭園に関心のある学生や一般の方、外国の方に向けて、庭造りの技見学会を開く予定である。さらに庭造りの模様をＳＮＳで世界に発信することとなっている。見学会に来てください。

２０２２年春開催全国都市緑化くまもとフェアに向けた取り組み
～ネオグリーンプロジェクトについて～　四国・九州ブロック　山下　礼子

１.はじめに

私は、2018 年 12 月に㈱アーバンデザインコンサルタントに入社しました。入社２年目ですが、2022 年春に開催される全国都市緑化くまもとフェア（以下フェアと記す）に関連する業務に携わっています。

開催まで２年、会場設営や運営について様々な準備が進められています。熊本市が市民向け PR 事業として取り組むネオグリーンプロジェクト及びその事業の一つとして昨年 11 月に行われた「高校生デコレーション花壇コンテスト」をご紹介します。

2.ネオグリーンプロジェクトとは

熊本市ではフェアの開催をきっかけに、多くの市民に花や緑に興味を持って楽しんでいただけるよう、ネオグリーンプロジェクト（市民と協働の緑化推進事業）として様々な取り組みを進めています。

これまでに市内の小学校への球根の贈呈や「高校生デコレーション花壇コンテスト」等が行われており、今後も地域における緑化活動のリーダーを育成する「みどりの検定」の実施等様々な形で取り組みが進められるそうです。フェアでは、会場だけでなく市内全体に花や緑のある美しい空間が広がるとともに、人々の活動で賑わう熊本の元気な姿を見られることが期待できそうです。

3.高校生デコレーション花壇コンテスト

2019 年 11 月 16 日、次世代を担う若者がガーデニングを通して緑と触れ合うことでフェア開催への関心を高めていくことを目的とし、熊本市の繁華街を会場にして行われました。

参加者はガーデニングに興味のある高校生グループ（３名以上）５チームと当日の一般参加者数グループで、会場内に準備した花や材料を用いて、花壇(1m×1m）を自由に装飾(デコレーション）し、最後に会場に訪れた見学者による人気投票が行われました。

花壇製作に時間制限はなく、竹や籠、煉瓦等いろいろな材料を用いて花の見せ方を工夫する等、参加者は自由に楽しみながら作っていました。高校生チームの作品は、園芸を勉強しているということもあり、どれも本格的な出来栄えで、カラフルでバリエーション豊かな花壇が並びました。高校生からは、「初めてのコンテストだったが、勉強した技術を発揮できる場になって、とてもよかった。」「このようなコンテストがあったらまた出場したい。」と言う声が聞かれました。

一般参加者は、「たまたま通りかかって楽しそうだったから参加した」という、買い物中の親子連れ等でしたが、花の組み合わせを工夫したり、手際よく植付けする姿から普段から花や緑に興味があることが感じられました。

今回のコンテストの開催によって、若者を始め一般市民にくまもとフェアの開催を知ってもらい、さらなる花や緑のあるくらしへの思いが広がったのではないかと思われます。

高校生の製作の様子

◆くまもとフェアについて

開期　2022 年３月 19 日～５月 22 日

会場　【街なかエリア】
熊本市中心部の熊本城公園及びシンボルプロムナード（2021 年完成予定）一帯
【水辺エリア】
動植物園を含む水前寺江津湖公園一帯
【まち山エリア】
熊本市の中心部から東北に位置する立田山

開催テーマ『森と水の都くまもとで花と生きる幸せを』

事業スケジュール

緑（仕事）と花（華道）と私

東北ブロック　　比嘉牧子

職場は仙台市泉区公園課公園係です。仙台市の新総合計画における、区別計画策定のプロジェクトチームのメンバーとして、平成 31 年度から、仙台市の最北の区で働いています（仙台市が政令指定都市になる前の、宮城県泉市です）。プロジェクトチームでは、区民参画イベント「泉区まちづくりデザイントーク」の企画、運営に携わり、意識の高い区民の皆様の意見を聞くことが出来ました。泉区は、計画的なまちづくりが行われた住宅団地が多いため、公園面積が仙台市で一番多く、平成 31 年 4 月 1 日現在で、区民一人当たり 22.22 ㎡、泉区全体では 473.79 ヘクタールの公園を管理しています。造園職ですので、公園の多い泉区は、働きがいがあります。来年度は、新規整備計画策定 2 公園、新規整備工事 2 公園、再整備工事 2 公園などを予定しています。町内会役員の皆様、周辺施設の管理者の皆様も協力的で、特徴ある楽しい公園を生み出せそうです。

課題として取り組んでいるのは、街路樹の管理です。住宅団地の開発時に植栽された街路樹は大木化し、宅地内への越境や、歩道の根上り、落葉による側溝の詰りなど、苦情の温床となっています。杜の都仙台の都市づくりの理念「自然との調和ある環境の創造」の浸透に力を尽くしながら、緑の保護と育成に努め、未来に誇れる発展を目指して、模索（もがき）中です。

仕事以外での活動としては、樹木医研修会や、日本造園学会東北支部の活動、仙台すずめ踊り、みちのく YOSAKOI まつり、仙台市役所ソフトテニス部等への参加をしていましたが、2011 年 3 月 11 日の震災後の忙しさのため、継続が難しくなってしまいました。

現在、唯一続いているのが、仙台市に入庁した平成 5 年度から行っている、華道です。昼休みに、龍生派の先生が職場に教えに来て下さっていたので、既婚ではありましたが、花嫁修業のつもりで始めたのがきっかけです。

令和 2 年度は、龍生派宮城県支部設立 80 周年のため、4 月 11 日（土）から 13 日（月）まで、せんだいメディアテークで行われる、支部展に向けてデッサン作成、会場内の作品配置レイアウトなどの準備を進めています。（写真は、過去の花展で出瓶した作品です。）

まだまだ寒さ厳しき仙台ですが、育ってきた神奈川県逗子市での生活より長くなりましたので、これからも東北ブロックの一員として、腹を据えて頑張る所存です。

ご指導よろしくお願いいたします。